Ⅱ：プル・アプローチ

道 徳 科 ・ 美 術 科 学 習 指 導 案

日　　時　　令和５年９月 21 日（木）　　授業会場　　美術室
授業学級　　１年Ｅ組（41 名）　　授 業 者　　村田　茜・常田　浩二
研 究 者　　村田　茜　　牧島　司　　丸山　進一　　常田　浩二

１　「あさひのユニット」における道徳科・美術科の研究内容

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳 第４章第３節６には、「道徳科の内容で扱う道徳的諸価値は，現代社会の様々な課題に直接関わっている。（中略）現代社会を生きる上での課題を扱う場合には，問題解決的な学習を行ったり，討論を深めたりするなどの指導方法を工夫し，課題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。」と示されている。そこで、本校道徳科では、実生活・実社会の諸課題をテーマにした問題解決的な学習を取り入れる。そして、そのテーマの解決に関わる他教科との関連をもたせた題材展開を構想することで、指導の効果を一層高めることが期待できると考えた。

上記の考えに基づき、本校道徳科では、まず、実生活・実社会の諸課題を踏まえて、「共に生きる社会」をテーマに美術科との関連をもたせた題材展開を構想した。このテーマは、「Ｂ（６）思いやり、感謝」、「Ｂ（９）相互理解、寛容」、「Ｃ（18）国際理解、国際貢献」の三つの内容項目を扱うことができ、それぞれの道徳的諸価値の理解を深めながらテーマを追求していくことができると考えた。さらに、このテーマにおいて美術科との関連をもたせることができると考えた。本校美術科では、商品イメージや使う人の立場に立って、使いやすさや機能と美しさとの調和を考えてペットボトルの形状を表現する学習を行っている。この学習では、様々な立場の人に受け止められるデザインになるように、客観的に使いやすさや機能などを考えることが重要である。この美術科の学習と関連をもたせることで、自他の立場の違いを理解し、相互の考えを尊重することのよさや価値について経験を通して感じることができ、実生活・実社会の諸課題を自分との関係で捉えることに有効であると考えた。

そこで、本題材において、様々な立場の人と共に生きていく上で大切にすればよいことを考えるために、道徳科では、実生活・実社会では様々な人の見方や考え方があることを理解し、それぞれの立場や個性を尊重しようとする心情を高める学習を構想する。また、美術科では、自分を含めた様々な人の立場に立って使いやすさや機能と美しさとの調和を考えて表現する学習を構想する。

このような学習を行うことで、道徳科で学んだことを生かして物事を多面的・多角的に考えたり、美術科の造形的な見方・考え方を生かして創造的に考えを巡らせたりして問題解決につなげていくことができると考えた。そして、このような学習によって、道徳科及び美術科の研究テーマ、さらには全校研究テーマに迫り、「豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者」につながると考えた。

２　題材名・学年「共に生きる社会 ～これからのカタチ～ 」・１年

３　主題・題材の目標　　※〔　〕内は、中学校学習指導要領との関連を指している

＜道徳科＞

（1）　思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精

神を深めること。〔内容項目Ｂ（６）　思いやり、感謝〕

(2)　自分の考えを相手に伝えるとともに、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとする気持ちを高めることができる。〔内容項目Ｂ（９）　相互理解、寛容〕

(3)　世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。〔内容項目Ｃ（18）　国際理解、国際貢献〕

(4)　諸事情の背景にある多面性に着目し、様々な角度から統合的に考察することができる。【イ　批判的思考力】

＜美術科＞

(1)　形の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに、材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すことができる。

〔（共通事項〕・Ａ表現（2）ア(ｱ)〕

(2)　使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ちや商品イメージから主題を生み出し使いやすさや機能と美しさとの調和を考え、表現の構想を練ることができる。

〔Ａ表現（1）イ(ｳ)〕

(3)　美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとすることができる。

(4)　客観的な視点を踏まえて感情にもたらす効果を理解したり、全体のイメージや文化的な視点で捉えることを理解したりすることすることができる。

【イ　批判的思考力】

４　題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	**イ　批判的思考力**
道徳科				新　諸事情の背景にある多面性に着目し、様々な角度から統合的に考察している。①
美術科	知　形の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに、材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	思　使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ちや商品イメージから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさとの調和を考え、表現の構想を練っている。	態　美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。	新　客観的な視点を踏まえて感情にもたらす効果を理解したり、全体のイメージや文化的な視点で捉えることを理解したりしている。②

５　道徳科・美術科として、全校研究テーマに迫るための重点１の手立て

・自分を含めた様々な人の立場に立って、立場や暮らす地域の文化等により、人はそれぞれ異なる見方や考え方をもっていることやそのことで対立する状況が生まれることもあることを理解したり、使いやすさや機能と美しさとの調和を考えて表現したりする活動を位置付ける。（題材）

・今までの学習や実生活での経験を想起しながら、「共に生きる社会」を実現するために何をすればよいのか考えたり、行動に移すことを妨げる原因について考えたりする活動を位置付ける。（本時）

６ 題材に寄せた教材化

（1） 題材を貫く問い（題材の学習問題）や題材展開（題材のデザイン）について

本題材では、題材の学習問題を「様々な立場の人と共に生きる社会でどのようなことを大切にすればよいだろうか。」と設定した。この「様々な立場の人」は、外国人、障害者、高齢者など自分を含めたあらゆる人々と本校道徳科と美術科は捉えている。「様々な立場の人」の捉えは、生徒一人一人の家族構成や将来設計などで異なる。そういった捉えの違いを踏まえて、生徒が対象とする人を想定して題材の学習問題の解決に向かっていく題材展開にすることで、生徒が、主体的に考えを巡らせることにつながると考えた。

道徳科では、様々な見方や考え方があることを理解し、それぞれの立場や個性を尊重しようとする心情を高める学習を構想した。この学習では、「共に生きる社会」というテーマに寄せて、外国人、障害者、高齢者など、自分を含めたあらゆる人々が登場する教材で、「Ｂ（６）思いやり、感謝」や「Ｂ（９）相互理解・寛容」等の複数の内容項目に関連した教材を扱う。そうすることで、生徒は、それぞれの道徳的価値に触れながら、「年齢や個人の価値観」「ルーツとする文化」「障害の有無」など立場や暮らす地域の文化等により、人はそれぞれ異なる見方や考え方をもっていることを複数の視点を通して感じ取っていくと考えた。また、それぞれ異なる見方や考え方をもっているからこそ、対立する状況が生まれることもあることを理解していくと考えた。

第１時、生徒は、『席を譲っただけなのに』という資料を通して、「思いやりをもって行動する時に大切なことは何か」を考える。よかれと思った行動に対して、思わぬ反応を受けた主人公の投書とその反響から、相手の置かれた状況や立場を想像することや、その上で行動に移すことについて考えていくと考えた。第２時では、『異文化の人々と共に生きる』という資料を通して、「異文化の人々と共に生きるために大切なことは何か」を考える。生徒は、自分が外国に行ったり、日本で外国人と接したりする中で、互いの価値観の違いから違和感を覚えたり、すれ違いが起きたりする場面が生まれることを知ったりする。そして、なぜ、すれ違いが起きてしまうのか、どうしたら対立が解消するのかを考えることを通して、互いに相手の意見を受け止めながら解決策を考えることや、それぞれの立場から自分の考えを伝えることの大切さについて考えていくと考えた。

美術科では、自分を含めた様々な人の立場に立って使いやすさや機能と美しさとの調和を考えて表現する学習を構想した。この学習では、日常生活でより多くの人が使っているペットボトルを対象として扱う。そのようにすることで、生徒は、様々な立場の人が使う場面を想起する必要があると考えると考えた。

第１時、生徒は、「サントリー天然水」（**図１**）のペットボトルの形状を鑑賞し、使いやすさや機能を考える。ペットボトルの真ん中がスリムになっていて凹みがあることで、年齢に関わらず持ちやすく注ぎやすい形状であると感じると考える。その後、様々な人の立場に立って多様な形状の飲料水のペットボトルを比較鑑賞する場面を取り入れることで、使いやすさとともに使いにくさも感じ取ることができると考えた。また、そのような使用する人の立場に立った客観的な側面による機能的なデザインに加え、形状から商品のイメージや美しさについても感じる生徒も想定される。教師は、そういった生徒の反応を基に、学習問題「様々な立場の人が使いやすく美しいペットボトルにするには、どのような形状にすればよいだろうか。」を設定する。第２～３時、生徒は、様々な立場の人を想定してペットボトルの形状のデザインを構想する。その際、教師は、４人で一つのグループとなり、互いの個性を生かして平面図で構想していく人と、紙粘土で立体的に造形しながら構想していく人とで分担し

図１　鑑賞するペットボトル
（サントリーホールディングス HP より転載）

て、一つのデザインを構想する方法を提示する。このような学習形態をとることで、生徒が、より他者の考えを取り入れながら、客観的な視点に立って使いやすさや機能と美しさの調和を考えていくことができると考えた。第３時の終末時点で、構想しているペットボトルの形状が、本当に様々な立場の人にとって使いやすいのか疑問をもつ生徒がいると考える。そこで、第４時、教師は、目が見えない高齢の方に実際に来ていただき、造形しているペットボトルを手に取った感想や意見を聞く場を設ける。そのようにすることで、生徒は、自分たちの構想のよさや価値を自覚したり、自分たちでは気が付かなかった見方や感じ方、考えを知ったりして、構想を見直すことができると考えた。第５時、生徒は、見直した構想を基に、さらに使いやすさや機能と美しさの調和のとれたペットボトルの形状になるように表現していくだろう。このような学習を構想することで、生徒は、題材の学習問題の解決に向けて、様々な他者と共に生きる現代で大切な視点について、考えを深めていくと考えた。

本題材では、このような学習を通して、社会人基礎力の「チームで働く力」を育成することを目指す。道徳科の学習では、外国人、高齢者、障害者が登場する教材を通して、様々な人の立場に立って考えていく。また、美術科の学習では、自分も含めた使用者の立場を想像する必要があり、試作を視覚障害者や高齢者に実際に使ってもらい、その感想や意見を聞いた上で構想を練り直して表現していく。これらの学習を通して、自分の考えに加えて、相手の立場に立って考える必要性を感じたり、相手の立場に立って考えたりする場面を経験する中で、「チームで働く力」における「柔軟性」を育成することができると考えた。

(2)　本題材における「デザイン思考」や「小さな実践（アウトプット）」の捉え

本題材では、デザイン思考のステップと小さな実践（アウトプット）を、以下のように設定した。

段階	本題材における生徒の姿の例	本題材における位置
ステップ１ 共感・理解	・実生活・実社会の諸課題について知り、テーマ「共に生きる社会」を受け、今までの人との関わりについて振り返る	第１時
ステップ２ 問題定義	・様々な立場の人と自分との違いから生まれる問題を見いだす	第１時
ステップ３ 発想・創造	・高齢者、外国人、視覚障害者など、異なる立場の人々と共に生きる社会で大切なことをそれぞれ考える【道】 ・誰にとっても使いやすいペットボトルデザインを構想する【美】	第２～６時
ステップ４ 試作	・紙粘土で形状を実際に表す【美】	第７時
実践 (アウトプット)	・実際にペットボトルを様々な立場の人に手に取ってもらった感想や意見を基に、形状を見直して表現する【美】	第８～９時
ステップ５ 検証	・活動を振り返り、共に生きる社会のために大切にしたいことは何かについて決め出す	第 10 時

(3)　本題材と「あさひのプロジェクト」とのかかわりについて

本題材は、グローバル化や少子高齢化などが進む現代の諸課題の解決に向けた学習であり、本題材を通して、【イ　批判的思考力】を育成することを目指す。

本校道徳科では、諸事情の背景にある多面的な要因に着目し、様々な角度から統合的に考察することで、相手の立場や考えを尊重していくことができると考えている。また、本校美術科では、デザインの学習において、客観的な視点で形の性質が感情に与える効果を理解して表現していくことで、相手の考えを想像したり尊重したりするよさや価値に気付くことができると考えている。「あさひのプロジェクト」では、実生活・実社会に

関わっていく活動の中で、様々な立場の人に出会い、関わりをもつ場面がある。そのような場面において、商品開発やイベントの企画を行うチームでは、メーカーや主催者側の立場、ユーザーと参加者側の立場など、相手の立場や考えを想像する必要があり、本題材を通した学習過程は、「あさひのプロジェクト」においても有効であると考えた。

7 題材展開

＜道徳科＞様々な見方や考え方があることを理解し、それぞれの立場や個性を尊重しようとする心情を高める学習

＜美術科＞自分を含めた様々な人の立場に立って使いやすさや機能と美しさとの調和を考えて表現する学習

全10時間扱い　本時は第８時

段階	○「評価に用いる評価」　●「学習改善につなげる評価」 学習活動	評価の観点	時間	
導入	【道徳科・美術科共通のガイダンス】 ・実生活・実社会の諸課題について知り、「共に生きる社会」を学習のテーマに据える。 ・共生社会における人との関わりについて生徒アンケートをとる。 ・**題材の学習問題「様々な立場の人と共に生きるには、どのようなことを大切にすればよいだろうか。」**を設定し、自分の考えを記述する。 ・道徳科と美術科のそれぞれのアプローチに関する説明を受け、題材の見通しをもつ。	●態	1	
展開	・教材「席を譲ったけれど」【内容項目Ｂ（６）】を読み、異なる立場の人々と共に生きる社会で大切なことについて考える。 **＜中心発問＞** **思いやりの心をもって他者と接するとはどういうことだろう。** ・教材「異文化の人々と共に生きる」【内容項目Ｃ（18）】を読み、異なる文化をもつ人々と共に生きる社会で大切なことについて考える。 **＜中心発問＞** **異なる文化をもつ人々と共に生きていくために大切なことはなんだろう。**	●新①	道1～2	2～9
	・「サントリー天然水」のペットボトルの形状を鑑賞する。 ・様々な人の立場に立って多様な形状のペットボトルを比較鑑賞する。 ・**学習問題「様々な立場の人が使いやすく美しいペットボトルにするには、どのような形状にすればよいだろうか。」**について予想し、学習の見通しをもつ。	●知	美1	
	・**学習課題「持ち方や持つ位置、使う場面を想定してグループで考えよう。」**を基に、ペットボトルの形状のデザインを構想する。 ・グループ活動で考えていることを全体で共有して振り返る。	○思	美2～3	
	・**学習課題「実際に使っていただいた感想や意見を基に、構想を見直そう。」**を基に、目が見えない高齢の方の感想や意見を参考にして構想を練る。 ・グループ活動で考えていることを全体で共有して振り返る。	●新②	美4	
	本時案参照	○新①	道3	
	・**学習課題「見直した構想を基にデザインに表そう。」**を基に、ペットボトルの形状を平面図と立体的な造形で表現する。 ・グループ活動で考えたことを全体で共有して振り返る。	○技 ●新②	美5	
終末	【道徳科・美術科共通の振り返り】 ・感想や意見をもらう前と後のペットボトルの形状のデザインを比較する。 ・題材を振り返りテーマ「共に生きる社会」に対する自分の考えを記述する。	○態 ○新① ○新②	10	

８ 本時案（道徳科）

(1) 題材名・学年　「共に生きる社会～これからのカタチ～」・１年

(2) ねらい

様々な立場の人と共に生きる社会でどのようなことを大切にすればよいか考える場面で、「共に生きる社会」を実現するために何をすればよいのか考えたり、なぜ実際は行動に移すことが難しいのか考えたりすることを通して、共に生きていくには相手を受け入れ、理解しようとすることが大切だということに気付き、互いの立場を尊重しながら生活していこうとする意欲を高める。

（イ　批判的思考力）

(3) 本時の位置（全 10 時間中　第８時）

前時：実際に使っていただいた感想や意見を基に、デザインの構想を見直した。（美術科）

次時：見直した構想を基に、ペットボトルの形状を平面図と立体的な造形で表現する。（美術科）

(4) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言	時間
題材の学習問題： 様々な立場の人と共に生きる社会でどのようなことを大切にすればよいだろうか。				
導入	１.本時の学習の見通しをもつ。	ア　ペットボトルをデザインした時に、赤ちゃんや小さい子どものことを考えた。 イ　障害者の中でも、目の見えない人のために点字をつけているグループがあった。 ウ　美術で出会ったＫさんは途中から見えなくなった人と、初めから見えない人では、同じものでも感じ方が違うと言っていた。	・資料「日本が 100 人の村だったら」を提示し、今までどんな人と関わったのか問う。 ・ア～ウのような反応を基に、「共に生きる社会」を実現するために何をすればよいのか考えるように促す。	5分
展開	２.「共に生きる社会」を実現するために何をすればよいのか考える。	エ　「席を譲っただけなのに」で、いろいろな考えの人がいるけれど、まずは行動に移すことが必要だと思ったから、私は相手を思いやって行動すればよいと思う。 オ　Ａさんは互いを認め合うと言っていた。価値観が違ってすれ違っても、どちらかだけが我慢するのではなく互いの思いを生かす方法を探せばよいと思う。 カ　Ｂさんは相手がどう思っているか考えればよいと言っていた。Ｋさんに感想を言ってもらったとき、予想と違う反応で、自分で想像するのには限界があると感じた。 キ　確かに実際は動けないかもしれない。	・自分の考えをもてるように、個人で考える時間を設ける。 ・自分の考えをもつことが難しい生徒には、一緒に学習カードを見返し、今までの学習を振り返るよう促す。 ・なぜそう考えたか問い、これまでの学習や経験を引き出し、つながりを確認する。 ・困っている外国の方に話しかけられたのに無視してしまった教師の経験を話し、似たような経験がないか問う。	15分
		中心発問：なぜ実際は行動に移すことが難しいのだろうか。		
	３.なぜ実際は行動に移すことが難しいのか考える。	ク　助けた方がいいと頭ではわかっていても言葉もわからないし、自信もないから、私も無視してしまうかもしれない。 ケ　Ｃさんが、意見が対立してしまったら、正直関わりたくないと言っていた。どうして自分と違うと感じる人に対して私たちは怖いと思ってしまうのだろう。 コ　Ｄさんが、例えば席を譲った方がいいと思っても、迷惑ではないかと考えてしまうと言っていた。確かに、相手の考えを想像するのは簡単ではないけれど、それでも相手のために行動することは諦めたくないな。	・自分の考えをもつことが難しい生徒には、題材の学習内容を振り返って具体的な場面を一緒に設定し、その場面について考えるよう促す。 ・なぜそう考えたか問い、難しさを感じる背景にある自分の考えや気持ちが何か考えるように促す。 ・互いに違うはずの自分たちが、それでも学級で共に過ごせているのはなぜか問う。	15分
終末	４.本時の学習を振り返る。	サ　相手がどう思っているか、何をしてほしいかが分からなかったり、自分がどう思われるか怖くて動けなかったりして、相手に嫌な思いをさせてしまうことがあると分かった。それでも、思いやりをもった行動を実行することが大切だと思うので、相手のことは簡単には分からないけれど、それでも知ろうとすることは大事だと思った。目の前のその人がどう考えているのか耳を傾けていきたい。	・それでも私たちは様々な人と共に生きていることを確認し、その上で題材の学習問題に対する自分の考えをまとめるよう促す。 【評価】互いの立場を尊重しながら生活していこうとする意欲を高めている。	15分